



「性教育は目的ではなく、人と人の関係性を取り戻す手段」と語る岩室紳也さん

思春期の性考える

盛岡で講演会 関係者ら100人参加

いわて思春期研究会「と指摘。

主催の特別講演会「思 岩室さんが育った時は春期の性、男子の性」代は学校や人生の先は24日、盛岡市のエス 輩、友人らから特に意ポワールいわてで開か 識していないコミュニケられた。医療保健、教育 ケーシヨンの中で、そてほしい」と呼び掛け関係者ら約100人が ぞれの体験や失敗談た。 参加し、現代の若者た などを通してリアルなちが直面する性をめぐ 性を学ぶ機会があつる問題に理解を深めた。

しかし今の若者はそ

講師を務めた泌尿器 うしたコミュニケーシ 科医師で、東京都の地 ョンがない上、きちん 域医療振興協会ヘルス とした教育の機会がな プロモーション研究セ い。男子の場合は誤っ ンター長の岩室紳也(いわたし しんや) たマスターシヨンを ん(56)は「誤った情報 繰り返すことで射精障 が氾濫する中、10代の 害となり、性生活がう 若い人たちが人とうま まくいかないなどの厳 かつながれないため しい現実があるとい に、さまざまな性の問 題に巻き込まれてい

化は「特に男子から、
『我慢』という形のストレスを奪う」と持論を紹介。性のストレスとうまく付き合うことは、衝動的な行動を抑制し、社会性や協調性を学ぶ機会でもある。

「これらのストレスから解放されるには、『ほかの人も同じ悩みを抱えている』と他者とのつながりを感じら

れる環境づくりが大 切。家族で、学校で、地域で声を掛け合え る関係性の再構築をし

また性体験の低年齢